

令和6年度第1回千葉県水産振興審議会 議事概要

- 1 開催日時 令和6年10月15日（火）午後1時30分から午後3時まで
- 2 開催場所 プラザ菜の花 3階 菜の花
- 3 出席委員 立岡大助、渡辺芳邦、石田義廣、佐久間國治、鈴木直一、石井つや子、柴田玲奈、村田裕子（8名）（欠席：坂本雅信、渡邊美恵子）
- 4 公開・非公開の区分 公開
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題
 - （1）千葉県農林水産業振興計画の取組状況について
 - （2）その他

7 報告事項

- （1）補欠委員の部会への配属について
- （2）令和5年度及び6年度の各部会における審議状況について
- （3）新規漁業就業者確保・育成対策に関する提言について
- （4）「全国豊かな海づくり大会」の招致について

8 議事概要

事務局が出席委員の紹介及び出席委員数の確認を行い、委員の半数以上の出席があることから会議が成立していることを報告した。

なお、会長が欠席したことから、副会長が会議の議長となり、議事を進行した。

議題（1）千葉県農林水産業振興計画の取組状況について

議長が県に説明を求め、県から資料1により説明した。

（委員）資料1－1について、種苗放流対象魚種としてクルマエビの記載がないが、引き続き、クルマエビの種苗放流をお願いしたい。

（県）資料に記載はないが、クルマエビについては、引き続き種苗放流を行う。

（委員）資料1－1について、種苗生産研究所富津生産開発室の工事期間中はマコガレイの種苗生産が一時休止となるとの説明があったが、工事完了後は種苗生産を再開するという理解で良いか。

（県）そのとおり。

また、種苗生産研究所富津生産開発室の工事完了後には、近年漁獲量が増加傾向にあるトラフグの種苗放流を開始する計画である。

（委員）資料1－1について、水産総合研究センターの再編整備に向けて施設の整備を進めているとの説明があったが、千葉県の水産総合研究センターと共同研究を

行う際に、分析装置が老朽化して使えないことがあったり、機器が古くて部品が手に入らずに修理ができなかったりということがある。機器類は高額なものもあり予算的に厳しいかもしれないが、試験研究業務の強化に向けて、現場の研究員の要望を聞き取り、研究に必要な機器類の充実についても検討してはどうか。

(県) 水産総合研究センターの再編整備を契機として、研究機器類を充実させたいと考えており、東京湾漁業研究所においても水質自動分析装置を導入したところである。限られた予算の中で必要な機器から整備を行っていくことになるため、十分な整備ができない場合は、国の研究機関との共同研究等により対応していくことも考えたい。

(委員) 資料 1－2 について、内房地域では何年も前から磯焼けが続いている。思い切った磯焼け対策が必要なのではないか。

(県) 県内で磯焼けが徐々に拡大していると認識しており、これまで漁業者の協力を得て植食性魚類の駆除等を行ってきたところである。海洋環境の変化の影響も大きく、県だけでは限定的な対応となることから、国との連携についても検討していく。

(委員) 他県の磯焼け対策の取組事例を参考にして、効果的な取組を進めるよう要望する。

(委員) 千葉県における磯焼けの要因として、ウニによる食害はないのか。

(県) 一部の地区ではウニによる食害も見られるが、千葉県ではブダイやアイゴなどの植食性魚類による食害の影響が大きい。

(委員) 資料 1－3 について、東京湾漁業の振興に係る取組の紹介が少ないので、アサリ、ノリ以外の県の取組について、いくつか紹介して欲しい。

(県) 東京湾北部の漁船漁業の漁獲対象種であるホンビノスガイの資源管理について、これまでの殻長制限に加えて操業時間を短縮させること等、漁業者と検討を進めている。

また、豊かな漁場環境に不可欠である栄養塩の不足については、漁場にどこから栄養塩が供給されるのかなどについて調査している。

さらに、貧酸素水塊については、東京湾漁業研究所が開発した予測システムを運用するとともに、覆砂等の嵩上げによる影響軽減手法の効果調査に取り組んでいる。

(委員) 資料 1－5 について、海業推進基本構想の策定について、進捗状況等具体的に説明をお願いしたい。

(県) 今年 8 月に第 1 回検討会を開催し、基本構想の構成案を決定するとともに、現状と課題の洗い出しを行った。11 月開催の第 2 回検討会において基本構想の骨子を固め、その後、経済効果を含めて検証を行い、2 月開催の第 3 回検討会を経て、年度内に基本構想を策定する予定。

(委員) 資料 1－6 について、「さかなの日」の取組として、一般の魚屋やスーパーマーケットと連携した取組はあるか。

(県) 「さかなの日」の取組が始まったばかりなので、まだスーパーマーケット等との連携はないが、今後、連携について検討していきたい。

(委員) 若者を対象とした魚食普及活動は、将来の水産物需要に直結する大変重要な取組と考える。学校給食での県産水産物の提供、民間企業との連携等、今後さらに取組が広がることを期待したい。

(委員) 資料 1－7 について、漁港の整備に当たっては、大きな漁港だけでなく、規模の小さな漁港へも目を向けて欲しい。

(県) 小規模な漁港では、機能保全事業により維持補修に取り組んでいるところである。また、市町村管理の漁港整備については、市町村の要望を県がとりまとめ、水産庁と調整する流れとなっている。

(議長) 県には、今後の施策の検討に当たり、本日委員の皆様からいただいた意見を、できるものから反映させていただきたい。

議題（２）その他

なし

報告事項（１）補欠委員の部会への配属について

事務局から、県が令和 6 年 7 月 5 日付けで補欠委員に選任した村田委員について、会長が 7 月 24 日付けで生産・販売流通部会に属すべき委員として指名したことを報告した。

報告事項（２）令和 5 年度及び 6 年度の各部会における審議状況について

資料 2 により、県から、栽培漁業・資源管理部会、生産・販売流通部会、海面利用調整部会における審議状況について報告した。

(委員) 資料 2（1 ページ）について、放流計画として、令和 6 年度にマコガレイ 460 千尾を放流する計画とあるが、工事期間となる令和 7 年度以降は 0 尾となるのか。

(県) そのとおり。

(委員) 放流尾数を 0 尾とした場合、基本計画との整合はとれるのか。

(県) 「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」については、令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 か年計画として定めているものであるが、年度ごとの放流計画については、栽培漁業・資源管理部会での審議により決定している。

なお、種苗生産研究所富津生産開発室の工事期間中については、マコガレイと併せて、ヒラメの種苗放流も一時中止となる。

報告事項（３）新規漁業就業者確保・育成対策に関する提言について

資料３により、県から、新規漁業就業者の確保・育成対策に関する今後の方向性を検討するため、学識経験者や漁業者代表等で構成する「千葉県新規漁業就業者確保・育成対策検討会議」を設置し、第３回の会議において意見が取りまとめられ、「新規漁業就業者確保・育成対策に関する提言」をいただいたこと及び提言の概要について報告した。

報告事項（４）「全国豊かな海づくり大会」の招致について

資料４により、県から、６月定例県議会において、知事が令和９年に開催予定の「第４６回全国豊かな海づくり大会」の招致に向けて取り組むことを表明し、大会推進委員会に開催申請を行った旨を報告した。

最後に、水産局長が、水産業を取り巻く環境は、自然環境的にも、社会環境的にも非常に厳しい状況であるが、業界の皆様からの意見をいただきながら、新たな千葉県農林水産業振興計画づくりに邁進していく旨の決意を述べた。

以上をもって、審議会が閉会となった。